



垂水市で働く魅力を考える

地域連携事業

本学と地方創生に関する協定を締結している垂水市の寄附講座が7年目を迎えました。

6月9日の開講式では、垂水市の尾脇市長から「6次産業化の取り組みと地の利を活かした観光振興を市の発展へつなげていきたい。講座が相互に実りのある時間になることを祈念する」と学生へメッセージが伝えられました。講師のグローバル・オーシャン・ワークスグループ CEO の増永氏は、水産養殖産業における起業や海外販路の拡大などの経験をもとに、「自分はどのような仕事に価値を見出すか、自分にしかできない仕事は何かを見つけることが人生を豊かにする一つの方法である」と話されました。

その後、「垂水市における地域資源の活用促進～『稼ぐ力』と『循環力』の強化プランを提案する～」をテーマに2回のフィールドワークを行いました。7月15日には牛根漁業協同組合、フェアフィールド・バイ・マリオット鹿児島たるみず桜島、竹之内組たるみず畑、11月11日には株式会社財宝農場、垂水大同青果株式会社を訪問し、地域での取り組みについて聞き取りしました。

フィールドワークをとおして学んだ地域資源活用の現状や課題を踏まえ、「稼ぐ力」と「循環力」の強化プランを議論していきます。



水族館と共催謎解きイベントで地域貢献

国際文化学科 松尾ゼミ

9月16日、23日に、国際文化学科日本語学ゼミが企画した謎解きイベント『水族館に眠る秘宝』が、いおワールドかごしま水族館との共催で実施され、計200名の参加がありました。

参加者は海賊団の一員となり館内各フロアにちりばめられた謎(問題)を解き明かしながら水族館のどこかに眠る秘宝を探し出すというイベント内容で、ゼミ生たちは司会進行や寸劇、謎が解けた参加者の回答内容のチェックなど、さまざまな役割を分担しながらイベントを盛り上げました。



輸出、観光の現状について学ぶ

経済学科 平出ゼミ

6月27日、経済学科平出ゼミの学生が鹿児島県の輸出及び観光の現状について学ぶため、鹿児島県庁を訪れました。

県の職員から、目標の観光消費額を達成するための取り組みや、今後の課題として「高付加価値商品・サービスの販売促進」および「県外から流入してきた資金をどのように県内の発展に繋げるか」などの話がありました。

また、輸出を促進するための取り組みの紹介が行われ、今後の課題として「鹿児島の特産品の海外での認知度の低さ」および「他県の類似品との競争」が挙げられました。



今回得た知識やゼミで学んだ内容を基に議論しながら、地域経済をどのようにしたら持続可能な状態にしていくことができるか考えていきます。

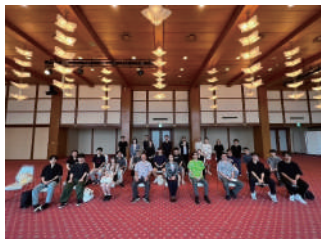
鹿児島で働く若者を増やすために

経済学科 康上ゼミ

7月1日、鹿児島で「働きたい」と思ってもらうにはどうすればよいのか、その解決策として鹿児島の魅力について学ぶことを目的としたフィールドワークを行いました。

まず坂之上製茶を訪問し、製造や出荷について学びました。代表取締役である坂之上氏から、「おいしいお茶は作り手の技術」との話をいただき、仕事に対する情熱に感動しました。

次に指宿いわさきホテルを訪ねました。一日中遊べるホテルとして、子どもと遊べる施設やサイクリング、温泉に食事などを通してお客様に「非日常を提供したい」とのサービス、エンターティナー性に魅力を感じました。



地域交流イベントでワークショップ実施

社会福祉学科 茶屋道ゼミ

茶屋道ゼミは10月21日、鹿児島市精神保健福祉交流センター（はーと・ぱーく）での地域交流イベント「はーと・まるしえ」にて、ワークショップ（ハロウィン・リース作り）を実施しました。

5月から準備を行い、紫陽花など生花をドライフラワーにするといった様々な工夫を凝らし、当日は約80名の市民の方と交流を楽しみました。

学生は、「イベントを通じて、鹿児島市が提供するメンタルヘルスに関するサービスを多くの方々に知ってもらうための工夫（普及啓発）の重要さや、人と人が繋がる機会を作ることの大切さや面白さに気付くことができ、引き続きゼミ活動を通して、このような取り組みを継続していきたいと思っています」と語っています。



県内施設の活用法を考える

児童学科 鮫島ゼミ

鮫島ゼミは5月12日に鹿児島県立博物館で、また6月30日にかごしま環境未来館にてフィールドワークを実施し、鹿児島の動植物についての解説や見学をとおして、小学校の教員を目指す学生たちの自然認識を深めました。

また、世界的な自然環境の現状と自分たちの未来について、どうあるべきかを考え、環境破壊およびSDGsの取組みについて学ぶことができました。

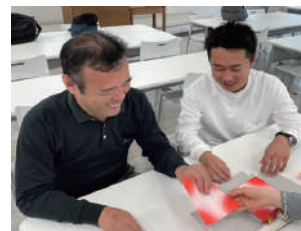
学生たちは、「木を紙やすりでこすって香りを感じることでできるコーナーがあり、五感で楽しめました」「SDGsや温室効果ガスによる温暖化、異常気象、大気汚染等の環境問題について、自然破壊等が進んでいることを深く認識しました」と話しています。



視覚障害者と遊ぼう！

経営学科 中西ゼミ

中西ゼミの3年生が5月7日におりがみ遊び、5月14日にお散歩・お食事支援、6月4日にはサウンドテーブルテニスをし、視覚障害者と一緒に遊ぶことを通してコミュニケーション・スキルを磨きました。視覚障害者は、ものの識別や力の程度の把握が困難です。そのため、言葉や



触覚など、さまざまな手段を使ってサポートする必要があります。中西ゼミの学生たちは、何の手がかりもない中、試行錯誤で視覚障害者のサポートを行い、深い学びを得ました。

参加した学生は、「この取り組みを通して、自分がいかに視覚に頼って生活しているかだけでなく、他の感覚の重要性にも気が付くことができた」と語っています。